

# 清流大川

羽地中学校  
学校だより 97号  
せいりゅうおおかわ  
H30.10.2



## 地区陸上大会を終えて

特別寄稿  
監督 山川先生

大会を終えて最後のミーティングで彼が言った「ほんとは悔しかった」という言葉がとて胸に響きました。悔しくてもあきらめず、めげずに努力する姿はまさにアスリートだったと思います。また、先輩としてのあるべき姿として、チームの中心としていつでも声をだし、引っ張る姿は、今の2年生・1年生の心にとっかかりを残していると思います。

来年の目標を最後のミーティングで2年生に聞いたところ、「総合優勝」とハッキリと言ってくれました。1・2年生ならきつとやってくれると思います。可能性も多いにあると思います。来年こそ「総合優勝」できるような頑張ろう。

夏休みから大会当日まで陸上選手団を支えてくれた先生方、ありがとうございました。僕自身は陸上未経験の中で付け焼刃の知識でしか指導することしかでき



ませんでした。そんな中でとてもたくさん先生方にお世話になりました。

各種目で決勝進出が増えて、入賞者が出たのもこれまでの先生方のご指導があったからだと思います。来年は今年以上の結果が求められると思います。また頑張ります。よろしくお願ひします。

最後にこの地区陸上大会まで、頑張ってきた選手、支えてくださった先生方、マネージャー、応援してくださった応援団、保護者の皆さんにたくさん感謝の気持ちを述べて終わりたいと思います。これから県大会、地区駅伝と続きますが、羽地中学校一丸となって頑張っていきたいと思います。

ありがとうございました。



## 自分史

スタジオエース様ご提供の写真も使用しています。

一年生は、一学期の総合学習で「自分を知る」ことをテーマに、生まれてからの歩みを振り返る『自分史』を書きました。

保護者の皆様からのご協力をいただき名前前の由来や幼い思い出を語って下さいました。ご協力ありがとうございました。人生に於いて大きな出会いのあったスポーツや芸能などに焦点をあてて綴られた一遍です。

第一章 誕生  
僕は、2009年12月0日に生まれました。第一子の子ともして、長男になりました。

第二章 幼き頃  
僕は幼い頃、とても人見知りな子でした。お父さんの友達に会ったりするときは何もしゃべらなかつたし、しかもあいさつもしなかつたので、怒られたことを今でも覚えています。

五歳になると、とてもやんちゃになり、いろいろ悪さをして、保育園の先生によく注意されていました。

その年の冬の頃、いつものように布団を敷いてすぐ眠れば良かったのですが、その日は布団の上で遊んでいて、滑ってしまい柱に頭をぶつけてしまい、後頭部に大きなカンパチをつくってしまいました。そのカンパチは貯金箱のようになので、丸坊主にした時にいじられます。

第三章 小学校  
小学校に入ると僕のやんちゃ度は増していき、一年生の頃は、下半身すっぽんぼんで

第五章 将来の夢  
今まで触れませんでした。僕は将来、野球選手になりたいです。野球が好きなので、大人になっても続けたいと思っています。でも、僕は努力することが苦手なので、普通の会社に入って、その会社の草野球チームにいられてもらいお金はそこそこ稼げればいいかなと思うときもあります。しかし、まだ若いので、しっかり勉強して、すごい野球選手になれるよう頑張っていきたいと思います。

へーさんの自分史へ

体育館を走り回っていて、もう、やんちゃを通り越して、ただの変態になってしまいました。

そんな僕が変わったのは、転校です。僕は二年生の時に石垣島の学校に転校しました。もともと僕は人見知りだったので、その学校に馴染むために時間がかかり、いつも間にか、そういう変なことはしなくなりました。でも今は、新しい友達もたくさん増えたので、また調子に乗って変な悪さをすることもしれないので、気を付けてください。

第四章 中学校  
中学校に入学して、もう一学期が終わり、二学期が始まりました。改めて時間が経つのは早いなあと思います。ですが、一学期で緊張感が抜けて、一組は授業中はとてもうささいです。おしやべりが多かったり、先生に聞こえないように文句を言ったり、難しい時期だなあと親のように言っています。実は結構、僕もうるさいです。

これが一組の課題かなと思っています。一組みんな直していきたいです。